

自然環境保全京都府ネットワーク 小塩山カタクリ、ギフチョウ保全地の視察

日時 2021年4月10日(土)

場所 小塩山

天候 はれ

参加者 noi-Kyoto 弓削、森浜、辻、(前田)

JR向日町から阪急バスに乗り、集合場所の南春日町バス停に向かいました。朝早いこともあり、4月になりましたがまだ寒く、日向で暖まりながら人が集まるのを待ちました。参加者が集まり、資料の配布と軽い説明の後、保全地へと歩き始めました。1時間半ほどかけて、頂上(642m)に到着すると、淳和天皇陵があり、近くにはミヤマシキミの花が咲いていました。

少し下って、1か所目の保全地であるNの谷に向かいました。入り口ではカタクリ等の缶バッジやボールペン、ポストカード(売り切れ)が販売されており、保全活動の資金にしているそうです。保全活動の内容を示す看板もあり、そこで説明を聞かせていただきました。

2008年に防獣ネットを張った後、シカやイノシシの侵入はほとんど無かったそうです。しかし、2018年になってイノシシがネットの下から侵入するようになり、今は侵入防止の金網をネットの下に差し込み補強をしているが、イノシシは補強されていないところから潜り続けているそうです。

柵を開けてもらい、中に入ると斜面には一面カタクリの花が咲いていて驚きました。今年は花が咲くのが早く、一部盛りを過ぎ、実を付けているものもありました。下から覗き込んだときに見える桜の花の様な模様や、陽の当たる姿がとてもきれいでした。斜面はぐると一周ロープを張った遊歩道になっており、エンレイソウやミヤコアオイ(葉)も見ることが出来ました。風がまだ少し冷たく、ギフチョウには会えませんでした。

次の炭の谷では、コナラの高木を切り、幼木を植えることで若いコナラ林を保つ試みが行われていました。ギフチョウの食草となるミヤコアオイはやや暗い森林に適応した植物ですが、コナラが高木になると林床が暗くなりすぎ、育たなくなってしまうそうです。伐採した木は薪割りし運び出すのだそうですが、相当な労力が必要なようで、学生団体とも協力しながら作業をしているそうです。



カタクリ



保全地N谷へむかいます



保全活動の内容を示す看板



防獣ネットのそばで観察

ここでは、カタクリに加えて、ミヤマカタバミやミヤマハコベ、ニリンソウ、ヤマネコノメソウ、ゴマギ等が見られました。ネットで囲われている中から、囲われていない外を見ることが出来るのですが、ネットの外には何も残っておらず、これだけの植物を今も見ることが出来るのは、保全に関わってきた方々の努力があったからなのだと強く感じられました。

炭の谷の近くの日向で昼食をとっていると、ギフチョウが谷の下からゆったりと飛んできました。そのうちの1匹は10分以上動かずに日向ぼっこをしており、間近で観察することが出来ました。下山途中にはツマキチョウも見ることが出来ました。どちらも目にするのは初めてだったのでとても嬉しかったです。春の訪れを感じるとともに、生き物同士のつながりや、自然と人との関わり方を肌で感じ学ぶことが出来る視察になりました。(辻)



カタクリ



説明のプレートがあります



ミヤコアオイ



エンレイソウ



体を温めるギフチョウ



ミヤマシキミ



参加者のみなさん



小塩山よりのながめ